別記様式第７号

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

１．申請者氏名	十川　麗美
２．審査委員	主　査：（岡山大学教授）大守　伊織 副主査：（岡山大学教授）大竹　喜久 委　員：（岡山大学教授）三村　由香里 委　員：（鳴門教育大学教授）伊藤　弘道 委　員：（滋賀大学教授）糸乗　前

３．論文題目　遺伝学リテラシー向上に向けた教育介入の効果検証：若年層および一般市民を対象とした実践的研究

４．審査結果の要旨

論文提出による学位申請者　十川麗美　から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第１６条に基づき，下記のとおり審査を行った。

論文審査日時：令和7年12月21日（日）14時40分～15時30分

場所（実施方法）：Zoomオンラインミーティング

1．学位論文の構成と概要

第1章　遺伝学リテラシーの概念的枠組み
　第１節　基礎となる健康リテラシーの枠組みから遺伝学領域への展開
　第２節　公衆衛生・ウェルビーイングから遺伝学リテラシーへの展開
　第３節　遺伝学リテラシーの構成要素
　第４節　遺伝学リテラシーを向上させるために必要な基礎知識
第２章　研究の背景と目的
　第１節　現代社会におけるゲノム医療の発展
　第２節　ゲノム医療と市民の課題
　第３章　遺伝カウンセリングの意義と遺伝カウンセラーの役割
　第４節　市民教育としての遺伝学リテラシーの課題
　第５節　本研究の目的と意義
第３章 日本のがん教育の現状と課題
　第１節　がん教育の制度的背景
　第２節　がん医療と遺伝・ゲノム教育の乖離
　第３節　市民教育としての課題と展望
第４章 研究方法論
　第１節　研究デザイン
　第２節　介入とデータ収集
　第３節　分析方法
　第４節　倫理的配慮

第５章 高校生向けまんが教材の効果
　　第１節　研究の目的
　　第２節　教材の設計と実施方法
　　第３節　結果
　　第４節　自由記述の分析
　　第５節 考察
第６章 大学生を対象としたリテラシー教育
　　第１節　研究の目的
　　第２節　講義内容と実施方法
　　第３節　結果
　　第４節　自由記述の分析
　　第５節　考察
第７章 一般市民におけるWeb動画による啓発の試み
　　第１節　研究の目的
　　第２節　講義内容と実施方法
　　第３節　結果
　　第４節　自由記述の分析
　　第５節　考察
第８章　総合考察
　　第１節 ３つの実践研究の比較分析
　　第２節 本研究の意義と今後の課題
　　第３節 本研究の学術的・社会的貢献
　　第４節　本研究の限界と課題
第9章 あらたなゲノム教育の提案と将来展望

2. 審査経過

本研究の独創性は、がんゲノム医療時代に求められる「遺伝学リテラシー」を、健康リテラシーの枠組みを基盤として再定義し、知識理解にとどまらず、不安の軽減や意思決定支援といった心理・社会的側面まで含めて包括的に捉えた点にある。さらに、高校生・大学生・一般市民という異なる発達段階・社会的背景を有する対象に対し、まんが教材、対面講義、Web動画という多様な教育媒体を用いた介入により、その効果を実証的に検証した点は、先行研究にはみられない体系的かつ実践的な試みである。学校教育への貢献としては、従来の生活習慣病中心のがん教育では十分に扱われてこなかった若年層（AYA世代）における遺伝・ゲノムの視点を導入し、生徒の主体的理解や家族との対話を促進する教育実践例を提示した点が挙げられる。また社会的には、一般市民の遺伝学的理解と専門職への相談行動を促す教育を提案している。遺伝学に関する情報格差や誤解の是正、がんゲノム医療における意思決定支援に寄与する点で発展性が高い。今後の遺伝に関する教育学と医学の学術的融合ならびにゲノム医療の地域・政策連携への応用展開が期待される。

3. 審査結果

以上より、本審査委員会は　十川麗美　の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。